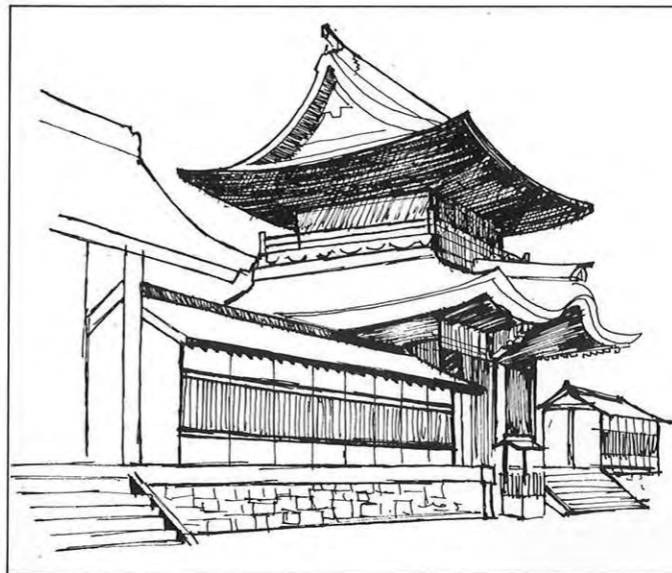


# わたしの郷土



私の住んでいる一の宮町は、阿蘇郡の中央にあります。昔の宮地町、坂梨村、古城村、中通村の四つが合わいて昭和二十九年に誕生しました。

回り全体が山で囲まれています。学校の教室からは、世界一大きなカルデラをもつ、阿蘇山のうちの高岳が見えます。

私が生まれて初めて見た中岳の爆発は、昭和五十四年九月二十六日でした。その年は、火山灰（よな）が雨のように何日も降り続き多くの被害が出ました。亡くなった人もいました。マスコミにも大きくとりあげられました。

穀物などは焼けて収穫できなくなりしました。しかし、幸いにもその後は、大きな爆発は起こっていません。

一の宮町内には坂梨に馬場八幡宮、宮地に阿蘇神社、古城に国造神社と三つの大きな神社があります。古城の手野の大杉は、ひじょうに有名で天然記念物に指定されています。近くには、古墳があります。

ます。中通地区の古墳群も有名なものです。最近、民宿もさかんです。

坂梨には、「古閑の滝」があります。

冬になると、滝が一面凍りつき、たいへんみごとな景色です。

なお、郷土玩具として坂梨に肥後の赤牛、宮地にとうきび人形があります。

## 歴史と自然の町

### 一の宮

一の宮町は、農業を主体とした町で、畜産にも力を入れています。先年、中通地区の木落牧場が天皇杯を受賞し、また皇太子ご夫妻もおいでになりました。

全国的に有名な阿蘇の野焼きもありません。牛馬を放牧するため、野原にいるグニを除去し、牛馬を保護するために行われていますが、夜、山が赤く燃える様は雄壮で言いようもなく、美しいものです。

私達の一の宮町は、歴史と自然の豊かな住みよい町です。

一の宮町立坂梨小学校 6年  
山口光江



### カメラ探訪 街道をゆく

## 肥薩の道

司馬遼太郎

「われわれが一泊すべき人吉である。この球磨川上流の盆地は桃源境とか隠れ里とかいったような地勢をもっているが、しかし測りしれぬほどの昔から日本ではよく知られていた。」昭和四十六年一月から連載の始まった「街道をゆく」の中で、司馬遼太郎氏は、肥薩の道として豊かな隠れ里人吉を訪れた。七百七十余年の間、相良氏の統治下にあった人吉の地理的事情その他を通じ、その歴史の中に日本の歴史の特徴を見出している。かつての隠れ里も、三つの国道等の近代化により、南九州の交通の要衝として発展を遂げた。